ほん屋

2018（H30）年11月　18号

“ほん屋”of the students, by the students, for the students

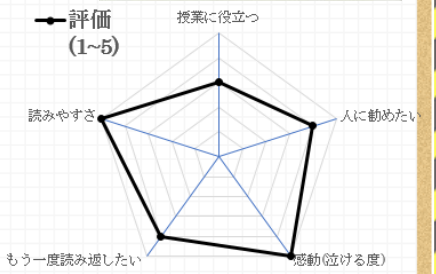
※この発刊紙は、学生が作るニュース(図書館発刊)です。

店長：図書委員3年
玉城　與那嶺颯
呉屋　與那嶺秀也

高専祭も終わって、いよいよ1年の終わりが近づいてきました。寒くなりますが体調管理に気を付けて過ごしましょう。

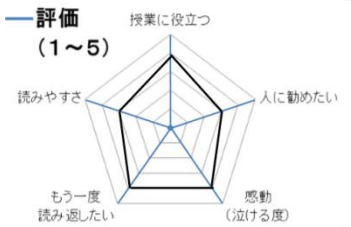
【生物資源工学科　萩野 航先生】
『ダニにまつわる話』　青木淳一　著

今からおよそ10年前、私が沖縄高専の3年生だった時のことです。当時、図書館で本の背表紙を眺めて歩いていたところ、ふと目に飛び込んできたのが「ダニにまつわる話」でした。「ダニなんてどこが面白いのだ」と斜に構えていた私は、たった３ページ読んだだけで、それまでの価値観がひっくり返されるほどの衝撃を受けました。日本で知られるダニ1800種のうち、人に悪さをするダニはたった20種で、それ以外の殆どのダニは無害か、「役に立つダニ」であり、土の中には無数のダニがいて、ひっそり、落ち葉を食べて暮らしていること。この本は、そんなダニの魅力に取り憑かれ、ダニの研究で博士号まで取ってしまった私の原点とも言える本で、まさに「人生を変えた1冊」です。



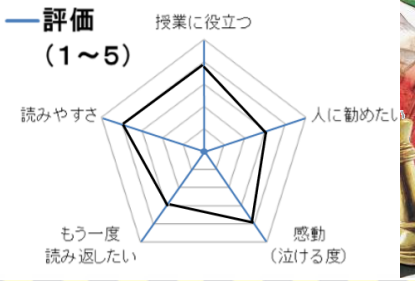
【生物資源工学科　本科3年　比嘉 菜緒】
『17人のわたし ある多重人格女性の記録』
リチャード・ベア 著　　浅尾敦則　訳

本書は簡単に言うと、カウンセラーのベア先生と治療を受けるカレンがオフィスで話すという単調でシンプルな本である。しかし読んでみると、17人の個性的なキャラ(人格)から語られるカレンの過去は悲惨でとても惹き付けられる物語であった。本書では、幼少期の性的虐待の記録が驚くほど詳細に記されている。最後にカレンも述べたように、ぜひ本書を読んでひどい虐待を受ける子ども達を救いたいという心が多くの人に芽生えてほしいと思う。



【機械システム工学科　本科3年　與那嶺 颯】
『デモナータ』　ダレンシャン 著

この作品は自分がファンタジーにはまったきっかけになった本のひとつで図書館にもあったので紹介したいと思いました。ストーリーは大まかに魔法を使い悪魔と戦うともので、面白いのは主人公が三人もいるというところです。特に主人公が強いというわけでもなく常にハラハラさせられ、仲間の裏切りや死なども書かれていて登場人物に感情移入しやすいと思います。グロテスクなところもありますが、自分が小学生の時に読んでいたので誰でも読めると思います。



【店長のつぶやき】

台風に次ぐ台風、先月は台風尽くしで大変な月となってしまいましたが、これからは年末に向けてさらに忙しくなると思うと今から憂鬱です。

皆さんだるさに負けず頑張りましょう！